## 一般財団法人脳神経疾患研究所 令和2年度事業計画書

当財団は、「すべては患者さん・利用者さんのために」という理念に基き、救急医療の体制強化、高度先進医療の推進、予防医学の拡充、介護・福祉と一体となった医療の具現化を進めてきました。昭和56年の南東北脳神経外科病院の開設以来39年目を迎え、現在では、総合南東北病院、南東北福島病院のほか南東北医療クリニックなど13病院・診療所、ゴールドメディアなど6つの介護者人保健施設を始め、9つの居宅介護支援事業所、7つの訪問看護ステーション、9つの通所リハビリテーションセンターなどを運営し、福島県を中心に医療・介護の一翼を担っています。

さらに、南東北がん陽子線治療センター、南東北BNCT研究センター、南東北創薬・サイクロトロン研究センターなどでは放射線を利用した高度先進医療に取り組むなど、 国内にとどまらず世界規模での医学・医療に貢献しています。

令和元年度は、4月に東京都世田谷区梅ヶ丘地区に、社会福祉法人南東北福祉事業団との複合施設として介護者人保健・障がい者支援・回復期リハビリなどを行う「東京リハビリテーションセンター世田谷(梅ヶ丘拠点整備事業)」がオープンし、早期の安定稼動を目指し業務を進めています。また、ホウ素中性子捕捉療法(BNCT)の適応診断やPET薬剤の研究などを行う「南東北創薬・サイクロトロン研究センター」も八山田地区にオープンし、多くの研究成果が期待されています。このように、令和元年度は計画されていた大規模な事業が具現化され、稼動を開始いたしました。

さらに、昨年から始動した本院の建替プロジェクトについては、社会環境等の変化に 対応する新しい総合病院建設プランを策定するため、各分野の多くの英知を結集し取り 組んでまいります。また、新百合ヶ丘総合病院においては更なる進展のため、本年6月 のオープンに向け 186床の新棟増築を進めています。

当財団を含めて法人等からなる南東北グループは職員数8,500人、事業所数100施設を超えるまでになり、青森県、宮城県、福島県、東京都、神奈川県、及び大阪府において、医療・介護・福祉事業を展開していますが、令和2年度はこれらグループ法人間の連携強化を図りながら、これまで以上に地域の皆さんから期待され、信頼されるサービスを提供するため、

- グループ全体の伸展のため、グループガバナンス強化など連携・支援体制の整備
- 二 変化する労働環境に対応する事務の合理化・効率化、職員間・所属間の相互協力体制の強化、IT 化等による業務改善の推進
- 三 コスト削減のため、全職員へのコスト意識の徹底、診療材料・医薬品・委託契約等の定期的な見直しと組織的にチェックできる体制の構築(LCO:ローコストオペレーションの更なる推進)
- 四 さらなる増収を推進するための診療報酬・介護報酬増点等に向けた人材育成と 組織体制の拡充及び予防医学、健診事業の振興
- 五 あらゆる媒体・メディアを活用した効果的・効率的な広報システムの構築と推進 体制の拡充・強化

## を基本命題とし、

- 1 16ゼロ作戦の更なる徹底
- 2 国の働き方改革に対応する人時生産性向上を具現化する労働環境等の整備
- 3 感染予防対策の徹底及びグローバル化に対応した防御体制の強化
- 4 カルテ記載の徹底・指導体制の拡充(特に非常勤医師や応援医師へのオリエン

テーション強化とマニュアル整備など) を共通目標として、さらに、各施設においては、 I 〜 畑の項目を重点に各種事業を推進 します。

- 一般財団法人脳神経疾患研究所は、南東北グループの中心法人としてグループの 企業体質強化、連携強化・一体化を図るため以下の項目を実行します。
  - (1)16 ゼロ作戦(①保険診療・コンプライアンス違反ゼロ、②請求漏れゼロ、③査定請求ゼロ、④請求返戻・返戻未請求・保留未請求ゼロ、⑤未収金ゼロ、⑥時間外勤務ゼロ、⑦無駄ゼロ、⑧感染・食中毒ゼロ、⑨人件費の適正化、⑩苦情ゼロ、①救急受入拒否ゼロ、⑫パワハラ・セクハラゼロ、⑬褥そうゼロ、⑭離職ゼロ、⑮虐待ゼロ、⑯個人情報漏えい・紛失ゼロ)を引き続き推進します。
  - 特に"人件費の適正化"について重点的に取組み、業務の効率化や内容の見直し、 職員間・所属間の連携・協力体制の強化、IT 化等による業務改善などを推進し、人時 生産性向上を図ると共に必要人員の把握や見極めを行い、適正人員を配置します
  - (2)国の働き方改革による労働環境の変化に対応し、採用、教育、異動、評価等の職員の能力とやる気を高める、離職ゼロの人事管理体制を拡充します
  - (3)本院建替プロジェクト事業の推進、東京リハビリテーション世田谷、南東北創薬・サイクロトロン研究所、大阪なんばクリニック等の早期安定稼動、新百合ヶ丘総合病院の新棟建設事業など、新規ビックプロジェクトを円滑に推進します
  - 4医学の発展に寄与するため、職員の自己研鑚を推奨し、国の科学研究費の活用や 民間からの助成等による研究活動を促進するとともに、新薬の開発のための治験に 積極的に協力します
  - (5)医学の発展に寄与するため、高度先進医療を推進し、人財を育成すると共に医科大学、公益法人、学会等の研究活動支援のために助成を行います。
- I 総合南東北病院、南東北医療クリニック、南東北眼科クリニックは、以下の項目を実行します。
  - (1)本院建替等の財源確保に向け、南東北第二病院との連携を強化するなど、さらなる 収益のアップを図り、入院稼働率 100%、外来 1,300 人/日以上(クリニック)、 眼科 150 人/日以上、病院 550 人/日以上(本院・救外)、合計 2,000 人/日、手術数 8,500 件/年、救急車台数 7,000 台/年以上、入退院数 1,000 人/月、経常利益率 5%、10 億円の利益を確保します
  - (2)国の働き方改革による環境の変化を的確に捉え、優れた人財を確保するための人事採用システムや、合理的かつ効率的な働きやすい職場環境を整備するなど、離職ゼロの取り組みを進めます
  - (3)グローバル化が進む中、海外からの患者が増えてきているため、国際医療体制を

- 確立し、2億円/年以上の収益を確保します
- 4PET を含め、質の高い健診の受け入れ体制を拡充し、5年後の収益 150%を達成します
- Ⅲ 南東北がん陽子線治療センターは、新規治療患者 550 人/年、経常利益 20%を 目指します。
- IV 南東北 BNCT 研究センターは、早期に実臨床を開始し、世界に向け治療実績を発信すると共に、適応拡大に向けた計画を明確にして実行します
- V 南東北福島病院は、以下の項目を実行します。
  - (1)急性期稼働率 90%、回復期稼働率 95%、外来 300 人/日、救急車 1,000 台/年、手術件数 1,000 件/年、経常利益 10%以上を目指します
  - (2)本院だけでなく、近隣の医療機関等とも連携・協力体制を構築し、稼働率の向上を実現します
- Ⅵ 介護老人保健施設、居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション、通所リハビリテーションセンターは、以下の項目を実行します。
  - (1)入所稼働率 100%、通所稼働率 95%以上を目指します
  - (2) 老健の在宅復帰率を30%~50%にします
  - (3)経常利益率 15%~20%を達成します
  - (4) 訪問系サービスは、営業の拡大、強化及びサービス向上により登録者及び利用者 増を図ります
  - (5)居宅系事業所の組織を統合し、グループ事業所への紹介・利用状況を管理します
- ▼ 東京リハビリテーションセンター世田谷は、地域における独自性を確立・発信し、 選ばれる施設となり、一日も早くフル稼働して安定運営を確保します
- ▼ 南東北こども学園は、PR を積極的に行い、地域の子育て世帯の受入も含め、利用 者増に繋げるとともに、経験・年齢などバランスのとれた人員体制を築き、幼児教育 など保育の質をより高めるように努めます。